

平成 29 年度 学校評価報告

平成 29 年度（自平成 29 年 4 月 1 日至平成 30 年 3 月 31 日）学校評価アンケートを配布し、有効回答のあったものについてその結果を別紙とともに学校評価を報告する。

（1）教育課程・学習指導等

シラバスの改善などを毎年行い全体的な教育内容の充実を図っている。そのことが確実に進級率に反映されており 90%は達成できたが、この数字に満足することなく今後は更なる充実を目指し、進級率 100%を常に目指していきたい。

通信制高校の根幹であるレポートについては、一部『わかりにくい』との回答もある。これらのことには、教科・科目担当の教職員とともに、真摯に内容改善に向き合わなければならない。

（2）教育相談・メンタル面へのサポート体制等

コース別担任制と、それをサポートする養護教諭やカウンセラーの協力態勢が非常に有効的に機能しているが、開校以来蓄積してきた指導のノウハウや教職員のスキルの向上により、生徒の学校での生活態度が安定している。また、スクーリングにおいても多くの生徒が最後まで真面目に取り組み、修了証を手に入れている。

当校としても、この状況に安住することなく、カウンセラーなど外部専門家に任せきりにしないために、昨年度より教職員自らが「教育カウンセラー」の資格取得に向けた取り組みをスタートさせた。先行するキャンパスではすでにこの効果が表れており、早期の段階で教職員全員が資格取得できるように研修を行っていきたい。

（3）キャリア教育と進路指導

丁寧な個別の面談を繰り返し、難関大学や専門学校への進学、プロになるために声優や俳優の養成所への進学、美容室やネイルサロン、ファッション販売等の就職者数も年々上昇しており、自ら望む専門分野への道を選択している生徒が進路決定している。今後も関連する業界関係者との連携により、一般的な就職活動だけではなく、独自のルートを通じて、当校ならではの就職先を更に開拓していきたい。

また、逆に、3年間学んできたことを活かした上で、別の分野への道に進む生徒もいて、進路は多様である。芸術高校だから芸術の進路しかないということではなく、専門的なことを学んだ先に多くの選択肢が見えてくることに気付きがある。

平成 28 年度からの日本大学芸術学部との連携を通じて、今後学校推薦枠をいただけるよう関係強化をしていきたい。さらには日本大学だけではなく多くの芸術系大学とも連携を進めていき、生徒の出口としての選択肢を増やしていかなければならない。

進学か就職かという進路指導の枠ではなく、生徒自身の人生を見据えたときにどう学校として関わっていけるかという、キャリア教育としての進路指導が出来る教職員のスキルアップが課題である。

(4) まとめ

一部の通信制高校の不適切な教育活動の実態から、高等学校通信教育ガイドラインでも、教育の質の確保・向上が叫ばれている。

法令の遵守は当然として、“芸術を学べる高校”という一貫した特長を今後も強く打ち出し、従来からの不登校経験者や学力不振に悩む生徒だけではなく、誰からも積極的に選ばれる通信制高等学校を目指していきたい。

質の高い学びと、キャリア教育・進路指導を一層充実させ、生徒・保護者・中学校等関係する方々に支持される学校として、これからも独自の教育を行っていく所存である。

学校法人 恭敬学園
北海道芸術高等学校
学校評価委員会

平成29年度 学校評価

学校法人恭敬学園 北海道芸術高等学校

平成29年度 学校評価 北海道芸術高等学校

教育理念	表情もまた学力である
教育目標	芸術を通し、高い倫理観・道徳律を養い、コミュニケーション能力、感性に富んだバランス良い生徒の育成
教育方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 個性と感性の尊重:個性溢れる創造力の育成 2 選択と自由の尊重:何を学ぶかを、自己の責任において自由に選択できる環境の提供と、判断力の育成 3 挑戦と失敗の尊重:積極的に挑戦する自主性と失敗から学ぶ態度の育成
中長期重点目標 (学習指導)	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習における、学ぶ姿勢の定着を図る 2 学習における、基礎学力の定着を図る 3 目標達成のために必要な学力を把握し、振り返りや応用学習に努める 4 新しい授業方法への取り組み(アクティブラーニングなど)を積極的に取り入れる
中長期重点目標 (生徒指導)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自由と責任を考え、自主・自立を促す 2 それぞれの将来を見据た、基本的生活習慣の確立 3 学習をとおして、自己表現、他者との関わりや信頼関係、コミュニケーション能力を育くむ
中長期重点目標 (進路指導)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自らの興味関心・能力・適性を把握し、納得のできる進路選択ができるように支援する 2 早期の段階からキャリア教育を展開することで、自らの進路に対して視野を広げる 3 芸術進路研修やインターンシップなどをとおして各業界に繋がるチャンスを与える

(評価／ A:よく出来ている B:まあまあ出来ている C:あまり出来ていない D:出来ていない)

事項	評価項目	評価	課題や改善策等
1 教育課程・学習指導	1 指導目標、指導計画、授業時間数などの教育課程の適切な編成・実施状況	A	
	2 生徒による授業評価の結果	B	
	3 教材・教具・図書等の整備と活用状況	A	オリジナル教材を今後拡充したい
	4 外部人材の活用状況	A	
	5 地域の自然や文化財等の教育資源の活用状況	A	
2 生徒指導	1 生徒指導体制の整備状況	A	
	2 教育相談体制の整備状況	B	更なるスキルアップを図る
	3 家庭・社会・関係機関等との連携状況	A	
	4 問題行動等の状況及びそれへの対応状況	A	迅速な対応を心がけている
3 進路指導	1 進路指導体制の整備状況	A	職員全員のスキルアップを図る
	2 職場体験の実施状況	B	更なる新規開拓
	3 進路指導の実施状況(職業観、適性、情報収集等)	A	
	4 家庭、上級学校、企業等関係機関との連携状況	A	
4 安全管理	1 学校安全管理計画等の作成・実施状況(安全管理体制の整備状況を含む。)	B	
	2 危機管理マニュアル等の作成・活用状況	B	
	3 教職員及び生徒の安全対応能力の向上を図るための取組状況	A	
	4 安全点検の実施状況	A	
	5 学校防災計画の作成・実施状況(災害発生時の応急対応体制の整備状況、避難(防災)訓練の実施状況)	A	
	6 家庭・社会・関係機関等との連携状況	A	
5 保健管理	1 学校保健計画等の作成・実施状況(学校環境衛生の管理状況を含む。)	B	実態に即した計画の作成と実施
	2 職員の健康診断の実施状況	A	
	3 心のケアの体制整備状況や健康相談活動、薬物乱用防止教室の実施状況	A	定期的な専門家からの指導
	4 生徒の自己健康管理能力向上のための取組状況	B	生徒の健康に関する意識向上を図る

	5 家庭や保健関係機関(保健所、医療機関等)との連携状況	A	
6 特別支援教育	1 校内支援体制の整備状況	B(-)	ノウハウは不足している
	2 医療、福祉等の関係機関との連携状況	B	
7 組織運営	1 学校の明確な運営・責任体制の整備状況	B	
	2 教職員の勤務時間等の把握	A	効率的に業務を行う
	3 学校事故への対応状況	A	報・連・相の徹底
	4 情報管理の状況(公文書の作成・収集・保管、個人情報の保護等)	B	特に個人情報は丁寧に扱う
8 保護者・地域 住民等との連携	1 保護者との連絡の充実状況	A	
	2 地域との連絡の充実状況	A	
	3 教育相談体制の整備状況	A	
	4 保護者や地域を対象とする意見収集	A	定期的に実施している
9 施設・設備	1 施設・設備の効果的な活用及び点検等の状況	A	
	2 学習・生活環境の充実のための取組状況	A	
10 学校経営	1 学校法人の経営状況	A	

平成29年度 事業計画の概要

(1) 生徒募集及び広報活動等

◆目標：平成30年度新入生500名

◆募集広報戦略

①中学校との信頼関係の強化を図る

中学校3年生からの入学者が9割を占める当校においては、中学校との信頼関係構築は絶対的なことであり、揺るぎない事実であることから、出身中学校（入学実績校）に生徒の状況報告、卒業後の進路報告等を丁寧に行っていく。単に学校案内等の資料を届けるのではなく、進路選択において必要な情報をタイムリーに提供する。

また、中学校教員向けに独自の学校説明会を実施し、直接北芸教育を感じてもらうことにも今後注力をしていきたい。

②インターネット上での広報活動の強化

Facebook や twitter などの写真をメインとした学校情報発信ツールや映像配信の youtube など活用する。インターネットでの広報活動を活性化させる。

③名古屋サテライトキャンパスの高等専修学校化

名古屋サテライトキャンパスを「技能教育施設」から「高等専修学校」へ転換するため、愛知県に申請をする。これにより生徒は現状よりも高度な専門教育が受けられることになる。

また愛知県授業料軽減補助金の受給や私鉄の通学定期券購入（名鉄・近鉄）など経済的なメリットを享受できるようにする。

合わせて、北海道芸術高等学校の「面接指導施設」として認可を受けられるよう北海道に申請を行う。

(2) 教育活動の充実

◆目標：進級率90%（離脱率を10%以下に）

◆目標達成のための施策

「生徒の満足度100%」が教職員としての使命・職責である。進級率・卒業率・進路決定率はそれを判断する数値目標となり、下記の施策を行う。

①個人面談を中心にコミュニケーションを図りつつ、教職員・担当講師も情報共有できる仕組みを作る。

生徒のみならず保護者にも積極的に連絡をとり、家庭での様子などを参考にしながら保護者との情報共有を図っていく。教職員はカウンセリングマインドを持って対応に当たる。

②出席チェックを徹底し、欠席過度者には面談を行い（当然保護者へも連絡）早期対応を行う。

メンタル面に問題のある生徒には、定期的なカウンセリングを実施し、全教職員で問題解決に当たる意識をもって対応をする。

③進路決定・卒業率目標達成に繋げるため、1年次より年次進行にて指導を進める。個別面談や三者面談を通じて、本人の進路への希望調査を行いながら、本人・保護者・教職員間で情報共有を図る。

進路指導に当っては、進学か就職かという短期的なものではなく、どう生きるか、なぜ働くのか、といったキャリア教育の視点を取り入れていく。

学校法人恭敬学園

事業活動報告書

平成 29 年度

北海道芸術高等学校

事業活動報告

学校法人恭敬学園の平成 29 年度（自平成 29 年 4 月 1 日至平成 30 年 3 月 31 日）事業活動報告は下記の様である。

1. 財務

項 目	平成 29 年度	平成 28 年度
事業活動収入	1,013,658 千円	865,355 千円
基本金組入前 当年度収支差額	316,533 千円	205,449 千円

2. 在籍者数等

項 目	平成 29 年度	平成 28 年度
新入生	474 人	501 人
在籍者	1,405 人	1,379 人

(注)

1. 新入生は、平成 29 年度開始時（5 月 1 日）入学者合計数
2. 在籍者は、平成 29 年度開始時（5 月 1 日）在籍者合計数

3. 事業活動報告

学校法人化後、3 年が経過し教育活動も安定してきている。特に仁木本校スクーリングにおいて、以前は宿泊施設から学校まで片道 1 時間以上のバス移動などがあり、生徒に肉体的、精神的な負担をかけていたところがあったが、平成 28 年 4 月、生徒専用のドミトリー（宿泊施設）を校内に建設することで、それらの負担を取り除く事が出来ている。

また、朝昼夜の 3 食ともドミトリー内で給食提供業者と業務提携をし、慎重に栄養管理、アレルギー対策なども行ったうえで、安心・安全でかつ温かい食事を提供している。

生徒が学習に集中できるよう環境整備向上に心掛けており、その成果か、保健室の利用や生徒間の諸問題などが激減している。

新入生の生徒募集に関しては、愛知県、岐阜県の希望者が減っており、単年（全体）で見ると昨年度比でマイナスとなったが、在籍者数は増加となっており、過去最高数を更新できた。背景には、日ごろから生徒の出身中学校に対し、生徒の状況報告を丁寧に繰り返し行い、また、在校生に対してはきめ細かい生徒指導、進路指導等の教育成果向上により、大変有難いことに中学校からの評価が高まったと考えている。

新たな展開としては、名古屋にある技能連携施設（北海道芸術高等学校名古屋サテライトキャンパス）を高等専修学校（愛知芸術高等専修学校）とするために愛知県に学校設置申請を行い、無事認可を受けることができた。これにより入学する生徒に対して授業料軽減補助が受けられること、また以前からの課題であった私鉄（名鉄や近鉄）の通学定期券の購入が可能となったことなど、以前に比べ競争力が増すこととなり、来年

度の生徒募集に関する明るい材料となった。また、高等専修学校化により北海道芸術高等学校の面接指導施設として北海道より認可を受けたことも大きな進展となった。

“芸術を学べる高校”という一貫した特長が中学校にも浸透し、不登校を経験した生徒や学力不振に悩む生徒だけでなく、自ら、希望する進路を見据えて入学をしてくる生徒も年々増加している。進路指導を更に充実させ、生徒、保護者、中学校等関係する方々に支持される学校としてこれからも募集活動を行っていく所存である。

ここ数年掲げている「魅力ある学校づくり」を実現するために①カリキュラムの充実 ②不登校経験者等への精神的ケア ③進路指導の充実 を継続し次のことについて成果を出すことができた。

(1) 進級率 90%以上（離脱率 10%以下）

シラバスの改善などを毎年行い教育内容の充実を図ることや、きめ細かい生徒対応をしていくことが確実に進級率に反映されており目標を達成できた。

今後も数字に満足することなく進級率 100%を常に目指していきたい。

(2) 生徒のメンタル面へのサポート体制

コース別担任制とそれをサポートするカウンセラーの協力態勢が有効的に機能しているが、開校以来学校として蓄積してきたノウハウや教職員のスキルの向上により、生徒の学校での生活態度が安定している。また、スクーリングにおいても多くの生徒が、途中で投げ出すことなく修了証を手に入れている。

28年度末より教職員への研修として、「教育カウンセリング」資格取得に向けて取り組んでおり、キャンパスによっては既に成果も見られていることから、より多くの教職員がこの研修を受けさらにスキルアップできるようにしていきたい。

(3) 進路指導の充実

ひとりひとりとの個別面談を繰り返し、難関と言われる大学や専門学校への進学、技術や資格を取得し、美容室やネイルサロン、ファッション販売等の就職決定者数も年々上昇しており、専門分野への道を選択している生徒の進路決定が増加している。このことについては、日ごろのサテライトキャンパスでの毎日の指導などの活動と、新たな就職先を開拓する職員の努力が大きい。

近年希望者が増加している大学への進学という点では、平成 28 年度にスタートした日本大学芸術学部との連携を通じて、今後学校推薦枠をいただけるよう関係を強めていきたい。

しかしながらその反面では、家庭内の経済的事情により、進学したくても出来ない生徒もおり、奨学金の利用などを含めて、様々な情報を提供し、一人でも多くの生徒が希望する進路につけるように指導を強化していきたい。また折角進学や就職をしても早期に退学や離職をしてしまうケースが見受けられるので、それらを解消するための方策を在学中から意識づける進路指導の必要を感じる。

平成 29 年度は全国から新入生 474 名を迎え入れ、総在籍者数は、1,405 名となった。